

The Philosophy of Nagahama Ceremony

人生最後の「ありがとう」のために。

地域に愛される会社でありたい。
これは今も昔も変わらない、長浜セレモニーの根幹となる想いです。

私たちが目指すのは、
お葬式を執り行なう“業者”としてのお付き合いではありません。
お葬式だけでなく、地域の催しでも皆様から必要とされるように。
長浜セレモニーに関わるすべての方から
「おかげさまで……ありがとう」と言っていたるように。

ご家族・地域の皆様の「気持ち」に寄り添う、
ライフパートナーでありたいと思っています。

100人いれば100通りの人生があるからこそ、
どれもが「世界に一つだけのご葬儀」に。

お集まりいただいたすべての方が、
故人様の思い出を分かち合い、生きた証を心に刻めるよう、
一人ひとりの想いを形にしたお葬式を実現いたします。

手間暇を惜しまず、人生最後の「ありがとう」をお手伝いを。
地域でのご縁を大切に、
社員一同「こころ」を込めてご奉仕させていただきます。

心のこもったあたたかいお葬式を届ける



長浜セレモニー株式会社
営業部 課長

高木 佑年

対価がなくても、この道を選ぶ

長浜セレモニー 家族葬の♡ウィズユー宮前



心のこもったあたたかいお葬式を届ける

私たちは常にお客様に満足いただける企業として感謝の「こころ」でご奉仕します
私たちは常に「こころ」から愛される企業として地域社会に貢献します
私たちは常に尊敬と愛情と信頼で結ばれ「こころ」をひとつにして協力の精神で社運の発展に努めます

お客様に安心と満足をご提供し、地域に愛される会社でありたい

- 地域の事情に精通した
地域密着の葬儀社
- お葬式の費用を1円単位で見積り
明瞭価格で安心のプラン
- ご縁を大切に
心をこめたご提案
- 地域密着の葬儀社だからこそできる
充実のアフターサポート
- 葬儀社格付 (UECIA)
最高評価5つ星を獲得
- たくさんのありがとうをいただいた
お客様の声

■式場一覧

家族葬の♡ウィズユー高月 滋賀県長浜市高月町 柏原396-1 パワーズさん斜め向かい	長浜市	長浜式場 滋賀県長浜市加納町 341-5 長浜1.Cより車で3分
家族葬の♡ウィズユー宮前 滋賀県長浜市宮前町6-4 旧国道8号線沿い	米原市	家族葬の♡ウィズユー近江 滋賀県米原市顔戸632-4 顔戸南交差点角

..... 葬儀のことなら何でもお気軽にお問い合わせください

☎ 0120-09-8395 通話無料 365日24時間受付

会社名 長浜セレモニー株式会社
本社所在地 〒526-0804 滋賀県長浜市加納町341番地5
TEL 0749-64-3415 FAX 0749-64-3416
代表者 代表取締役 松村隆雄
設立 2001年7月

ホームページはこちらから▶▶▶
<https://nagahama-ceremony.com/>



対価がなくても、この道を選ぶ

お金をいただくなくても、葬儀の仕事をしたい。それが私の率直な想いです。

「京都に住みたい」という理由で、地元の長浜から京都の大学へ進学した私は、先の見えない未来を前に、アルバイトを転々とする日々を過ごしていました。

そんな中で出会った、葬儀の仕事。

思い返してみれば、自身が仏教学科を専攻していたり祖父方がお寺だったり、葬儀の仕事に興味を持ち得るきっかけはいくつもあつたはず。でも最初のきっかけは、企業説明会でした。数ある会社の中でも長浜セレモニーが輝いて見えて、「ここしか座るところがない」とピンとききました。

その後、新卒枠で2017年に入社。現在は課長として新人教育を務めながら、お客様との打ち合わせや施行にも携わっています。

今の私があるのは、教育担当だった先輩の言葉のおかげです。先輩は、定年後にお母様が亡くなったとき「高木くんがいるから、長浜セレモニーに式をお願いするよ」「これからも、誰かの心の支えになってあげてね」と伝えてくださったんです。

実はそれまで、「自分は営業に不向きだ」と感じていて……。就職活動中に「営業職を全部外してください」と伝えていたほど、昔から人見知りだったんです。

先輩に顔向けできるよう、受け継いだ想いを次へ繋ぐつもりで日々を重ねて、今。苦手を克服できる良い機会をいただいたと、感謝の気持ちでいっぱいです。

そんな私が働くうえで大事にしているのは、お客様と心で繋がること。利益ではなくお客様第一で考え、誠心誠意、正直に向き合わなければなりません。

でも、誠心誠意向き合い続けるって、想像より遥かに難しいと思います。たとえば「こういうお客様は、こうしたら喜んでくださる」と思った途端、それは「心底してあげたいこと」ではなく「作業」となってしまうから。

葬儀は、たくさんの方の力が合わさってはじめて完成する場です。つまり私は私のやるべきことをやり、お客様への責任を果たす必要があるということ。

今の長浜セレモニーがあるのも、先輩方がそうやって信頼を積み重ねてきた結果なのでしょう。

時代とともに、効率の良さを求められる場面も増えてきました。それでも私は、場数を踏んで作られた引き出しを開けるのではなく、「してあげたい」をいつでも選びたい。常に初心を忘れないでいたい。

いつまでも、先輩の想いを受け継いで。

そんな姿勢で向き合い続けるこそが、お客様や仲間と助け合い、成長していくことに繋がると信じています。

そしてこれからは、私が次の世代にバトンタッチする番。「教える」ではなく「伝える」つもりで、お客様のためならどんなことでもする覚悟で、これからもこの仕事に向き合って参ります。



The Philosophy of Nagahama Ceremony

人生最後の「ありがとう」のために。

Yuto Takagi